

別表 2 微生物学的検査項目（ラット編）

Pathogen	定期/随時 検査	参考事項(授受のガイドライン)		
		カテゴリー	発生頻度	ステータス
Sialodacryoadenitis virus (SDAV)	定期	B	☆☆	Min
Sendai virus (HVJ)	定期	B	☆☆	Min
Hanta virus	定期	A	☆	Min
Rat parvovirus (KRV/H-1/RPV)	随時	C	☆☆	Ex
Rat thilovirus (TMEV)	随時	C	☆	Ex
Pneumonia virus of mice (PVM)	随時	C	☆	Ex
Mouse adenovirus	随時	C	☆	Ex
Reovirus type 3	随時	C	☆	Ex

<i>Mycoplasma pulmonis</i>	定期	B	☆☆	Min
<i>Salmonella spp.</i>	定期	A	☆	Min
<i>Clostridium piliformis (Tyzzer's organism)</i>	定期	C	☆☆	Com
<i>Corynebacterium kutscheri</i>	定期	C	☆	Com
<i>Bordetella bronchiseptica</i>	定期	C	☆	Com
<i>Pasteurella pneumotropica</i>	随時	C/D	☆☆☆	Com
<i>Streptococcus pneumoniae</i>	随時	C	☆	Ex
<i>Cilia-associated respiratory (CAR) bacillus</i>	随時	C	☆	Ex
<i>Pseudomonas aeruginosa</i>	随時	D/E	☆☆☆	Ex
<i>Staphylococcus aureus</i>	随時	D/E	☆☆☆	Ex

<i>Pneumocystis carinii</i>	随時	C/D	☆☆	Ex
-----------------------------	----	-----	----	----

<i>Giardia muris</i>	定期	C	☆	Com
<i>Spironucleus muris</i>	定期	C	☆☆	Com
Non-pathogenic intestinal protozoa				
<i>Tritrichomonads, Entamoeba muris etc.</i>	随時	E	☆☆☆	Ex
Pinworms				
<i>Syphacia spp.</i>	随時	E	☆☆☆	Ex

定期/随時検査

定期検査：検査実施頻度が4回/年以上を推奨する。

随時検査：特に検査実施頻度および検査動物数を定めず各施設の状態に応じて実施することを推奨するものである。

参考事項について

国動協と公私動協が共同で使用している「実験動物の授受ガイドライン」の各項目を引用し、そのまま掲載した。

カテゴリー：1984年に制定した国動協カテゴリーをもとに、その後発表された「実験動物の微生物モニタリングマニュアル」（日本実験動物協会など、1989、2005）等のカテゴリーを参考に、免疫不全動物におけるカテゴリーを踏まえて分類した。C/DやD/Eの表記は、

実験目的や実験区域の管理に応じて各施設で選択できるよう配慮した。

発生頻度： ☆：過去 10 年程度国内での発生がほとんどない

☆☆：時々あり

☆☆☆：頻繁にあり

ステータス (微生物学的ステータス：微生物学的状況)

Minimum (Min)：これらの微生物は陰性であること。

Common (Com)：これらの微生物は陰性であることが望ましい。特に、系統維持動物は陰性であることを目指す。

Excellent (Ex)：これらの微生物は、高度の免疫不全動物や免疫抑制実験では陰性であることが望ましい。しかし、これらを周辺環境から完全に排除するには厳密な管理と設備が必要であり、通常の実験においては存在の可否を問わない。